

次代を担う若い声を市政に！

令和6年度

旭市子ども議会

7月29日に令和6年度子ども議会が開催されました。一般質問を行ったのは、市内小・中学校20校から選ばれた20名の子ども議員で、議場で行われる定例会本番さながらの一般質問の模擬体験をしました。議事進行役は旭市議会の飯嶋正利議長が務め、市長をはじめ各課長が質問に対して答弁にあたりました。



雑草による環境問題について

僕の通学路には、道のわきが雑草でおおわれている場所が何か所もあり、交通事故や、この時期はマダニも心配です。年に2回のゴミゼロ運動で雑草を取る活動を加えるというのはいかがでしょうか。

環境課長

ゴミゼロ運動に草刈りを加えるのは、ごみと草を一緒に回収することが困難なため難しいが、地区やボランティア団体の方が公園等の草刈りをした場合、区長さん等からの連絡で、その都度草の回収をしています。

ガードレール設置の取り組みについて

ガードレールは事故から歩行者を守る等、生活を安全にしてくれるものだと思います。市のガードレールの設置予算はいくらで、どこへ設置する予定でしょうか。現時点での取り組みと今後の予定を伺います。



建設課長

令和6年度のガードレールの予算については、人が水路へ落ちるのを防止するために設ける柵の設置予算として、484万円を計上し、東総工業高校西側の水路沿いに約220mを整備します。

将来のAI・ロボットの活用について

AIやロボットを活用することはいいことだと思いますが、仕事を取られてしまったり、「人の手でつくる」よさがなくなってしまうのではないかと考えました。市では将来どのようにAIやロボットを活用していこうと考えていますか。



企画政策課長

よりよい社会を維持していくためにも、人の手でなければできない仕事と、AIやロボットに任せられることができる仕事とをきちんと分担し、その上で効率的な活用を進めていくことが、とても重要だと考えています。



旭を日本一住みよいまちに

「日本一住みよいまちは旭市かもしれない」を実現させるために、公園の遊具増加を提案します。公園はいつもたくさんの子どもが家族と遊んでいます。しかし、子どもの数に対して、遊具が少ないと思います。

都市整備課長

公園では多くの子どもたちや家族が遊具で遊んだり、ジョギングをしたり、様々な方が様々な目的をもって利用しています。利用者の声を聴きながら、公園遊具の整備についても研究していきたいと考えています。



いとう ひまり
伊藤 妃麻里 議員
(共和小)

バスの利用をもっと身近に

わかりにくいバス停に屋根やベンチをつけることにより、バス停がわかりやすくなり、日よけ、雨よけ、風よけにもなり快適になると思います。バス停をもっとわかりやすく快適にし、たくさんの方が利用できるよう提案します。

企画政策課長

わかりにくいバス停へのベンチ等の設置については、利用人数はもちろん、道路の幅等の安全性の問題もありますので、そうしたことを踏まえたうえで検討していきたいと考えています。

小・中学校の再編について

学校再編説明会について、地域住民や保護者の方への説明会は開催されていますが、当事者である小・中学生への説明会を開催する予定はないのでしょうか。新しい学校づくりに僕たちもぜひ参加させてください。



たかはし あつと
高橋 篤人 議員
(矢指小)

教育総務課長

小・中学生への説明会やアンケート等については、各学校の先生方と相談していきたいと考えています。そういった機会の中で、質問や様々な意見をお伺いすることにより、新たな「発想」が期待できます。

観光施設・産業のPRについて

3月に銚子連絡道路が匝瑳市まで伸び、今後、移動がますます便利になると思いますが、旭市は知名度が低いので、銚子市にきた観光客が立ち寄りたくなるような観光地を道路沿いに建設することを提案します。



だんじょう りと
檀上 理斗 議員
(鶴巻小)

企画政策課長

銚子市へ向かう観光客を立ち寄らせる観光地を道路沿いに建設する予定は現在ありませんが、市では撮影隊を誘致したり、観光イベントや観光PR、旭市に関する情報発信等、積極的に行っています。

学校給食のプラスチックごみの削減

例えば、牛乳のストローを廃止したり、パンの袋をなくし食缶から配膳したり、ゼリーの容器を紙にしたり等です。こうすることで、プラスチックごみを削減できるだけでなく、環境問題について学ぶ機会になると思います。



いわい はつぎ
岩井 はづき 議員
(豊畑小)

教育総務課長

プラスチックごみの削減の提案はとても素晴らしいものです。市教育委員会でも、プラスチックごみの削減の提案に対してどのようなことができるか、引き続き考えていきたいと思っています。



なみかわ ゆずな
浪川 柚愛 議員
(鳴鳴小)

もっと良い旭市になるには

旭市に遊びに来た人たちがSNSで発信したくなるような遊びや映えスポットをつくる。例えば、自然を生かしたグランピング施設。そこで旭の食材を提供し、野菜の収穫体験等、自然を生かした体験を企画し、活気のある旭市になってほしいと思う。

商工観光課長

グランピング施設については、様々な市町村でオープンしているようです。旭市は、自然がいっぱいで美味しいものもたくさんあります。これからのまちづくりを進めていく中で、検討していきたいと思っています。

岩井地区の通学路の危険について

滝郷地域にはたくさんの危険な通学路があります。滝郷学園付近の坂は歩道がなく、交通量も多く大変危険です。そのため、道路の舗装や白線の追加等をする必要があるのではないかと思います。



はま あさひ
塙 朝陽 議員
(滝郷小)

建設課長

ご質問の道路は、坂の下側から舗装の修繕工事を始めたところですので、工事に併せてグリーベルトの設置を考えています。皆さんが安全に道路を通行できるよう、安全対策を進めていきたいと考えています。

学校の統廃合について

僕の通っている飯岡小学校がなくなってしまうことは寂しいし、利便性が悪くなってしまうのではないかと思います。そこで、学校の統廃合に関して、実施するメリットについて、わかりやすい説明をお願いします。



すこう はるき
菅生 治希 議員
(飯岡小)

教育総務課長

一番のメリットは友達が増えることだと思います。学校再編で友達が増え、友達と競い合ったり、学びあったりすることで豊かな人間性を身につけられるように教育環境を充実させていくことを第一に考えています。



はやし りせ
林 莉世 議員
(三川小)

屋内アスレチックの建設

市には雨天の際に室内で楽しめる施設がとても少ないです。少子化対策や大人の健康維持のために、天候に左右されずに遊んだり運動したりすることができる、屋内アスレチックの建設を検討していただけないでしょうか。

スポーツ振興課長

室内アスレチック等を建設する計画はありませんが、運動やスポーツをすることは重要であると考えています。市では、多くのスポーツイベントを実施し、健康の維持増進に役立てていただきたいと思います。



統合後の校舎の使い道について

萬歳地区は自然が豊かなため、都会疲れをしている人を呼び込むのにいいと思います。小さい子どもから大人まで楽しめ、泊まれる施設や憩いの場となる施設として活用すれば未来につなげられると思いました。

教育総務課長

活用方法については、学校再編の準備委員会や地域の皆さんとも話し合いを進め、伊藤議員やたくさんの人が仲を深め合って、楽しいと思ってもらえるような場所となることを目指して、考えていきたいと思っています。

伝統ある校舎を後世へつなげよう

廃校施設の再利用について、銚子市では地域の交流拠点として活用したり、レンタル施設として体育館等を貸し出しているとありました。廃校施設を地域交流の場として活用することを提案します。

教育総務課長

閉校後の使い道はまだ決まっていません。大根議員のアイデアも含めまして様々な活用例を調べて、地域の皆さんにも活用していただけるような施設となるよう、話し合いを進めていきます。



部活動の地域移行に向けての見通し

クラブチームとして活動し、大会に出場する場合、指導者には資格が必要になると思います。資格取得のための受験料等の費用や指導者への報酬について、市で補助していただけないでしょうか。



教育総務課長

市では顧問と同じように指導をしたり、引率できたりする「部活動指導員」を配置しています。補助については、予算との関連があることから、国や県、他市町村の状況を鑑みながら研究していきたいと考えます。



干潟地域小学校の統合に関わる疑問

萬歳小学区や中和小学区から古城小まで登校するのは遠くて大変だと思います。そのため、スクールバスの運行等があればいいと思いますが、現時点で、計画されていること等あれば教えてください。

教育総務課長

萬歳小学区や中和小学区から古城小に徒歩で登校するのは大変だと思いますので、スクールバスでの登下校を想定しています。今後、バスが何台必要で、どの道を走るか等について、具体的に検討していきます。



交通安全に関わる設備や補助

カーブミラーの凍結対策をお願いします。カーブミラーは、冬季に凍結して見えにくくなり、非常に危険な思いをした友達もいます。凍結に強い材質を使ったミラーにする等の対策をお願いします。

建設課長

曇りを防止する加工が施されたミラーもありますので、地域の方からの意見を参考にしながら、曇りやすい、凍結しやすい場所に設置されているミラーを、曇りにくいミラーへ交換していきます。

統廃合後の学校施設の利用について

学校には教室が多くあるため、その一室を使用することで、個人が経営できるお店や塾、撮影用のスタジオにも活用できるのではないかと考えています。市では学校跡地はどのように利用しようと考えていますか。



市長

鈴木議員の提案は豊かな発想で良いアイデアだと思います。学校は地域とともに歩んできた歴史もありますので、地域とのつながりやニーズ等も含めて、たくさんの活用の可能性を考えていきたいと思っています。

若い世代の認知症に対する理解

今後、増加する認知症について、私たち若い世代も共に学び理解する必要があります。そこで、交通安全教室等のように、小・中学校で認知症について学ぶ機会を市として確保していただくことはできないでしょうか。



高齢者福祉課長

認知症の方への理解を深めてもらうために、「認知症サポーター養成講座」を市内小・中学校においても開催しています。今後も全ての小・中学校で講座が開催できるよう、取り組みを進めていきます。



学校における「ラーケーション」導入

ラーケーションとは「ラーニング＝学習」と「バケーション＝休暇」を合わせた造語で、休暇を楽しみながら勉強もできるシステムです。年に3回取ることができ、家族で共通の時間がとれるよう提案します。

教育長

ラーケーションを導入することにより、平日に保護者等が子どもと一緒に学び、活動できるようになるとされています。効果や課題、すでに導入している市町村の状況を鑑みながら、研究していきたいと考えます。